



国際ロータリー第2520地区 Rotary International District 2520

大河原ロータリークラブ会報

クラブ創立 1968年2月12日

2019~20年度

国際ロータリーマ

ロータリーは

世界をつなぐ



ROTARY CONNECTS THE WORLD

例会日：毎週木曜日 12時30分	会長：藤江裕佳里	広報・ICO	2019-20年度 RI会長
例会場：和洋亭 ぶざん	副会長：甘糟 仁	委員長：佐藤能文	マーク・ダニエル・マローニー
柴田郡大河原町字新南25-18	幹事：佐々木由美子	副委員長：岡崎 隆	2019-20年度 ガバナー
TEL 0224-51-1113	副幹事：武者 昌洋	委員：庄司 大 鈴木 賢	NO.1
事務所：〒989-1245 大河原町字新南25-18 TEL0224-86-5901 FAX0224-86-5905 info@rotary-ogawara.com			

2019年7月11日(木)第2514回例会

会長あいさつ

会長 藤江 裕佳里



今日も皆様と元気に例会に出席し、共に過ごすことが出来ることを嬉しく思います。

本日は、クラブフォーラムということで樽見会長・丸山幹事年度の報告審議がございますので宜しくお願い致します。

突然ですが、45.7%という数字、何の数字か、おわかりでしょうか？正解は、後程お伝えしたいと思います。

今日出席の皆様、新聞を取っていらっしゃる方？固定電話のある方？FAXのある方？携帯電話やスマホを使用している方？メールなどインターネットを利用している方？さて、先週の例会でマーク・

ダニエル・マローニー会長からのメッセージが例会当日の朝にメールで届き皆様にも紹介致しましたが、一昔前であればエアメールで一週間位掛かったでしょうか？手紙等の郵便から電報・電話む・FAXへと、さらにメールへとテクノロジーの進歩を感じないではられません。でも自筆のハガキや手紙は差出した人を感じられていいものでしたね。

現代社会は、多量の情報が満ち溢れる世の中でロータリーも例外ではありません。5月の地区研修協議会でのガバナーのお話にもありましたが、MY ROTARYというロータリーの活動に必要な情報やデータをオンラインで入手出来る便利なシステムへの登録、活用が進められています。特に今後、会長・幹事予定の方にとってはクラブ運営にとって不可欠のしずてむです。是非ご登録下さいとのこと。9月末迄に登録目標を会員数の50%に設定しているそうです。実は、45.7%ですが、ガバナー月信4月号によりますと我が大河原クラブの3月11日現在の登録数です。2520地区では2番目、宮城県内では1番目の登録数です。確か小田部晃二郎会長年度・村上則夫会長年度と、お勧めいただいた成果かなと思います。当初お話いたしました通り「不易流行」の理念で新しい時代に必要なことを取り入れるに通じるかなと思ってお話をさせて頂きました。

お聴き頂き有難う御座いました。

幹事報告

幹事 佐々木 由美子



① ロータリー青少年交換プログラムの長期と短期の留学生募集の案内

② マイロータリーの各クラブ登録状況の案内が来ております。

大変多くの皆様方に、ご参加下さいまして、有り難う御座います。

フードロス削減に向けて前回も、ご案内致しましたが、欠席なされる方は幹事は、お忙しいところ恐縮ですが、ご連絡下さいますようお願い致します。

米山BOXの報告 山家 正信 副委員長 4名 31,000円

スマイルBOXの報告 高橋尚敏 委員長 4名 33,000円

出席の報告 津田 正行 委員長 会員数35名 27名の出席 77.14%



うな重です。 夏バテしませんように・・・

食事の言葉

「多くの命と皆様のお陰により、
この御馳走を恵まれました。」

美味しかった・御馳走様でした。

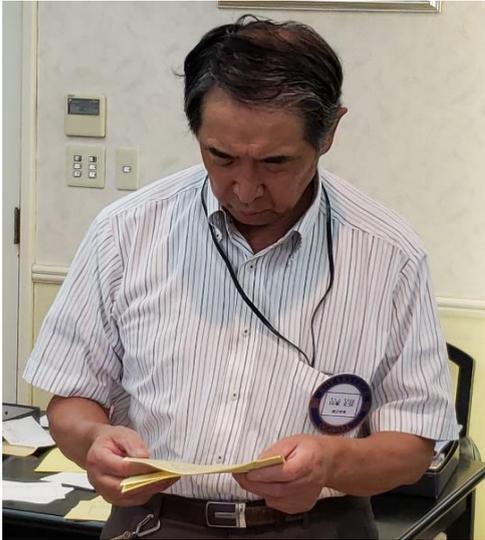


吉田 茂 会計

今年度も会計を担当致します。

どうぞ宜しくお願い致します。

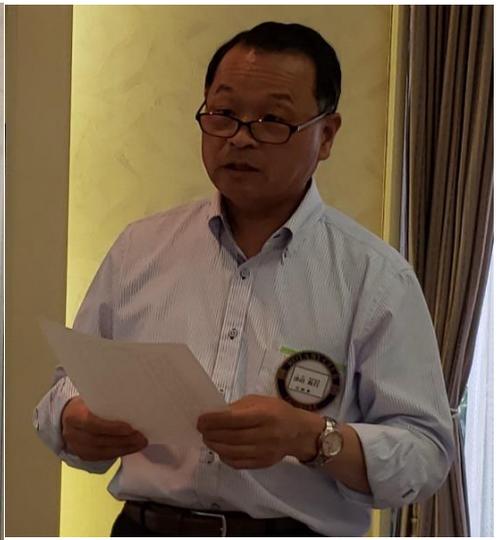
クラブ会費納入も宜しくお願いします。



米山記念奨学会
山家 正信 副委員長

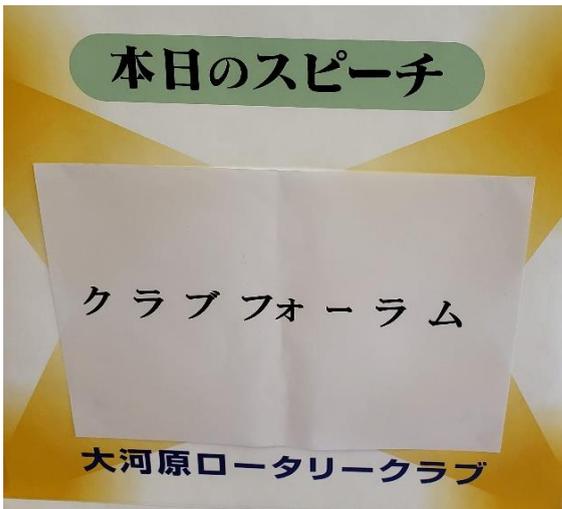


スマイルボックス
高橋 尚敏 委員長



出席
津田 政行 委員長

クラブフォーラム



2018-19年度
丸山 勝利 幹事



2018-19年度
樽見 正仁 会長

クラブフォーラム

- ① 2018-19年度 大河原ロータリークラブ活動報告 丸山 勝利 幹事
 - ② 2018-19年度 大河原ロータリークラブ決算報告 丸山 勝利 幹事
 - ③ 2018-19年度 大河原ロータリークラブ監査報告 高城 英男 会計監査
- 2018-19年度 樽見 正仁 会長・丸山 勝利 幹事 大変お疲れ様でした。



「シェアド・リーダーシップ」それぞれの力を合わせて